

県民投票への私の思い



「 県議会傍聴で知った 人権無視と制度の遅れ 」

私は76歳の県民です。柏崎刈羽原発から21kmの所に、生まれた時から住んでいます。この度、県民条例制定の可否を決める県議会の第一日目を妻と二人で傍聴しました。

参考人として招かれた新潟大学法学部の今本教授は「県民条例は、高度な技術的判断を要する込み入った現代的課題には適さない」と述べました。いかにももっともらしい言い方だが、それは間違っていると私たち傍聴者は憤り、拳を握り締めました。住民が生活に関わる問題について、自分の意見を持ち主張することは当然の権利です。

核分裂によって爆発するのではないかという危機的状況にあった福島原発事故。避難を余儀なくされた人たちの辛い体験談を沢山聞き、学習会で放射能の減衰には何百年もかかることや柏崎刈羽原発の真下には活断層があって危険なことや津波の心配もあること等も学んできました。柏崎刈羽原発の度重なる事故や福島原発の事故処理の見通しのなさには

原発は人間が安全に扱えるのだろうかと不信感を持つばかりです。まだ勉強は足りないかも知れません。しかし、私は原発と隣り合わせの所に生活しているのです。どうしてノーと言えないのでしょうか。

4月18日の新潟日報記事で、立教大学の五十嵐暁郎名誉教授の話を知りました。

「欧米など世界では一定の署名が集まれば自動的に住民投票が行われるのが通例だ。花角知事や一部県議はこうした認識が不足している」「知事も県議も主権者たる県民に選ばれた代表であり、県民の代理人でもある。民主主義の『本人』である県民が自分たちで決めたいという意思を、代理人が否定できるのだろうか」と批判していました。

同じ学者でも全うな理論を唱える人もいるんだなと妻と共に励まされ、いつかは私たちの切実な願いは実現されるはずだ、それまでは署名など活動が続けていこうという思いを強くしました。 (中村 官)

「 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働の是非を問う 」

「この事案は国策であるから県民投票によって是非を求めることは適切でない」という声が、政府・経済界方面から聞こえてくる。この声には裏がありそうだ。

我が国は先進国の一員であり、他の先進国と競い合う分野が多い。半導体業界がまず今の世界では重要分野である。すべてに半導体が使用されている、そのため半導体製造には多量の電力を必要とする。我国産業が、原子力発電を渴望するのは、このためだと言って過言でない。

しかし、原子力発電は極めて大きな危険性を内蔵していることも、これまで多くの人々によって指摘されてきた。もし大惨事が起こった時は、取り返しのできない事態となる。

「県民投票を実施することは、国策と矛盾しない」と考える。 (3月17日 佐藤 譲)

【お知らせ】 県と内閣府が「緊急時対応」の住民説明会を開催します。ご参加を!!
6月7日(土) 正午～午後4時 長岡リリックホール (県のホームページで事前申込み必要)